

中米コスタリカでのデング熱発生状況

2010年6月10日 厚生労働省情報



外務省の公電によると、コスタリカではデング熱患者の発生が急増しています。昨年同時期と比較すると、今年のデング熱患者は4倍となりました。2009年1～5月でのデング熱患者数は1,584名で、最近の6年間で最も減少していましたが、本年同期の患者数は6,521名に達しました。

現在、コスタリカ国内では3種類のデング熱ウイルスが確認されており、3型はデング出血熱を引き起こすとされています。この3型により、グアナカステ県アバンガレス市で42歳の女性が死亡しました。

同国保健当局は、デング熱患者急増の主な原因として、国民が蚊の発生を防ぐ対策を怠ったためと述べています。

BRETEAU指数（100世帯当たりで蚊のボウフラ又はサナギの発生している箇所の割合）は、サンホセ市サンセバスティアンでは40%で、10カ所のうち4カ所で蚊の幼虫が確認されました。通常、この数値が10%を越えるとデング熱が発生するとされており、40%の数値は「非常に高い」値であるということです。また、古タイヤ、貯水タンク、洗面器、花瓶、雨樋、動物用の水飲み場でボウフラが多く見られます。

5月末時点でデング熱患者が多かったのは、サンホセ県のパソアンチョ、ロペスマテオ、ラカルピオ、ティラセス、ポソス（サンタナ）、アラフエラ、プンタレナス県、グアナカステ県で、患者の多くが15～39歳の年齢層に分布しています。